

カリキュラム・教科書・アセスメントコンポーネント

ニュースレター（第34回）

前々回は第3回インパクト調査（1年生）の結果をお届けしました。今回は、第4回インパクト調査（2年生）結果の速報です！

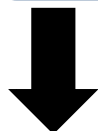
2年生結果概要

- 新カリキュラムで勉強した新小2の算数テストの平均点が、旧カリキュラムで勉強した旧小2の平均点ばかりでなく、旧小3の平均点よりも有意に高い。
- 旧来型問題と新型問題の両方において、新小2の正答率は旧小2の正答率より有意に高い。
- 更に、新型問題においては、新小2の正答率は旧小3の正答率より有意に高い。



1年生結果概要

- 新カリキュラムで勉強した新小1の算数テストの平均点が、旧カリキュラムで勉強した旧小1の平均点よりも有意に高い。
- 旧来型問題と新型問題の両方において、新小1の正答率は旧小1の正答率より有意に高い。



算数において、新カリキュラムの導入により、児童の学習成果に有意な改善が見られたと推定できます。

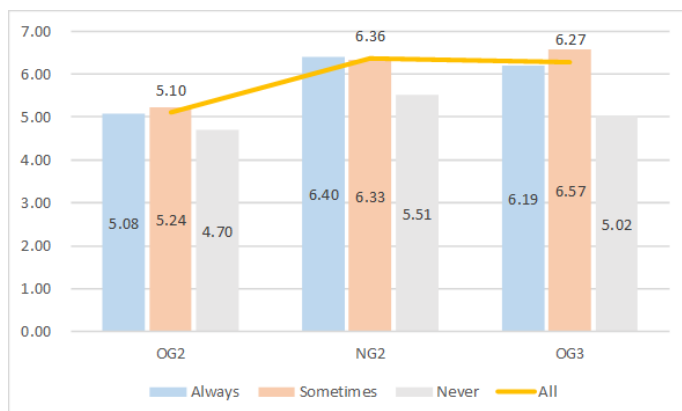


詳細な分析結果の一部をご紹介します! (以下、OG2=旧小2、NG2=新小2、OG3=旧小3)

1. 授業中に教科書を使うと点数は上がる?

⇒上がります!教科書を「いつも」又は「時々」使う子どもたちの平均点は、教科書を「全く使わない」子どもたちの平均点より有意に高いです。

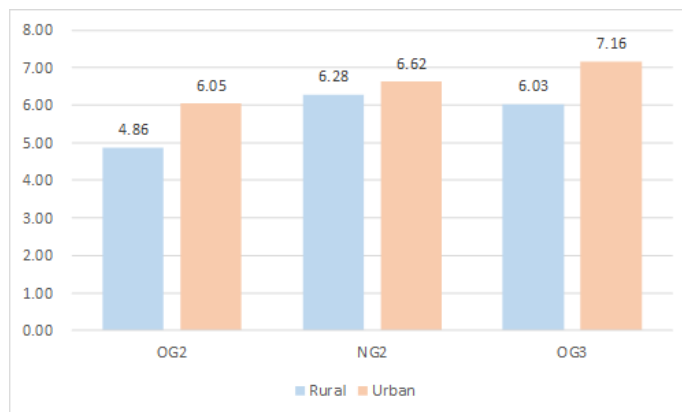
また、この分析では、旧カリキュラム時よりも新カリキュラム時の方が、算数の授業中に教科書を使う頻度が多いことも分かっています。



2. 農村部、都市部で違いはある?

⇒残念ながら、差はあります。旧小2、新小2及び旧小3の全てにおいて、都市部の子どもたちの平均点は遠隔地の子どもたちの平均点より有意に高いです。ただし、新カリキュラムで学んでいる子どもたちが、差は小さいです。

日本も都市部と地方では子どもの学力差があるとの分析結果が多いですが、育つ場所に関係なく、平等な機会が得られるようにしたいものです。新カリキュラムが地域差を減らす助けになっているとしたら嬉しいことです。

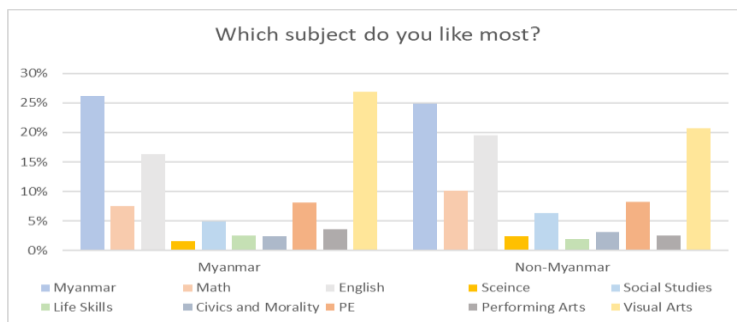


3. 一番好きな科目は?

⇒なんと一番人気はミャンマー語(25.9%)でした! 図工(25.8%)、英語(16.9%)、体育(8.1%)、算数(8.0%)と続きます。これだけを聞くと算数が一番好きな子どもは 8.0%「だけ」と捉えることもできますが、「算数は好きか?」という問いに対し「はい」と答える子どもは新カリキュラムでは約 95%もいます。(旧カリキュラムでは 79%なので 16%アップです!) これを踏まえると、勉強全般が好きで子どもが相当数いるのかもしれない。

4. ミャンマー語が好きなのはミャンマー語話者だけ?

⇒そんなことはありません! 意外にも、ミャンマー語以外の言語の話者の間でも、ミャンマー語が一番人気という結果でした。好きな人の割合もミャンマー語話者とほぼ変わりません。母語でなくても楽しく学べる国語の教科書ということでしょうか! !





こういう調査って、プロジェクト側の都合の
良いようにデータを取ってるんじゃないか…？

ヤンゴンとネピドーを除く地域から、都市人口の割合が高い郡区と低い郡区を1つずつ無作為に、計4つ抽出しています。

- ❗ 更に、それぞれの郡区から50の小学校を層化抽出(※)しています。
- ❗ 回答する児童が偏らないよう、対象とする小学校の新小2、旧小2及び旧小3の全児童（各約4,500～5,500名）にテスト及びアンケートを実施しています。
- ❗ 旧来型問題と新型問題の比率は1:1と公平です。
- ❗ 校長200名、教師206名にアンケートを実施しています。

※要因別に母集団を幾つかに分け、適切な比率でサンプルを抽出する方法。

➡ 可能な限り客観的なデータから得た結果と言えます。

今後は、算数のみならず、ミャンマー語のインパクト調査も実施する予定です。各教科において子どもたちの能力が向上し、ひいては子どもたち自身の幸福、ミャンマーの発展へと繋がっていくよう、これからも日々邁進して参ります。続報もお楽しみに！



以上

文責：小菅 恵理子（PR 担当）
インパクト調査担当：渡邊 真美
編集：宮原 光（PR 担当）